

# 造影 CT 検査の説明書

患者氏名： \_\_\_\_\_

検査予約日： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_ 月 \_\_\_\_ 日

## 1. 造影 CT 検査の目的と必要性

今回の CT 検査では造影剤を使用します。CT の造影剤はヨードを含む薬で、静脈に注射します。造影剤を使用することで、病気の性質や広がりなどが詳しくわかり、診断に大変役立ちます。造影剤を使用しなくても CT 検査はできますが、検査の部位や目的によっては造影剤を使用しないと正確な診断ができない場合があります。

## 2. 造影剤の副作用について

造影剤は一般的には安全な薬ですが、以下のような副作用がおこることがあります。

- 1) 軽い副作用：稀に、吐き気・じんま疹・くしゃみなどがおこることがありますが、一時的なもので心配ありません。頻度は 100 人に 3 人程度です。ほとんどの場合は自然に軽快しますが、薬を使うこともあります。
- 2) 重い副作用：極く稀に、血圧の低下・呼吸困難などがおこることがあります。頻度は 1 万人に 4 人程度です。薬で治療しますが、気管挿管など特別な治療を要したり入院が必要になる場合もあります。40 万人に 1 人程度と非常にまれですが死亡の報告もあります。
- 3) 検査後しばらくしてから、かゆみ・じんま疹・気分不良などの副作用が生じることがあります。ほとんどは自然に良くなり心配いりませんが、症状がひどい場合は来院されるか、電話でご連絡ください。
- 4) 勢いよく造影剤を注入するために、造影剤が血管外に漏れることがあります。通常は時間がたてば吸収されますので心配ありませんが、漏れた量が非常に多い場合には切開等の手術が必要になることがあります。
- 5) 造影剤投与後に、腎障害が生じる場合があります。多くは一時的なものですが、まれに腎不全に陥ることがあります。この造影剤腎症のリスクは腎機能低下に応じて増加するので、検査前にできるだけ直近の腎機能の評価することが重要です。検査前 3 ヶ月以内に採血を行って腎機能の評価し、造影剤の使用が可能か、検査当日の点滴が必要か判断します。

\*喘息やアレルギー体質の方、以前にヨード造影剤で副作用のあった方は、副作用がおきやすいと言われておりますので、事前に教えてください。万が一、副作用がおきた場合に備え、すぐに適切な対応ができるように準備を整えて検査を行っています。検査中に具合が悪いと感じた場合には、すぐに検査担当者伝えてください。

## 3. 注意事項

お食事は、できるだけ検査の 3～4 時間前に終わってください。脱水症状を避けるため、水分は検査直前まで取ってかまいません。心臓や血圧などの薬は、いつもどおりに服用してください。糖尿病の薬の中には造影剤との併用で乳酸アシドーシス（乳酸が蓄積して血液が酸性に傾き、早急な対応を必要とする病態）など重篤な合併症を起こす危険性があるものもありますので、糖尿病の薬を服用している方は必ず担当医か CT 室のスタッフにお知らせください。

## 4. 合併症が生じた場合の医療費

この検査や合併症が発生した場合の費用は、すべて健康保険の適応となります。高額医療の助成やその他公的助成等については、院内に相談窓口がありますので、スタッフにお尋ねください。

## 5. 代わりの検査

検査の部位や目的によっては、MRI や PET などでも診断できる場合もあります。ご希望の方は、担当医にお尋ねください。

## 6. 同意を撤回する場合

同意書に署名された後でも、造影剤の使用をやめることができますので、担当医か CT 室のスタッフにお知らせください。わからないことがあれば、何でもお尋ねください。

以上のように、患者へ説明しました。

説明年月日： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_ 月 \_\_\_\_ 日

医療機関名： \_\_\_\_\_

説明医： \_\_\_\_\_